ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E1121020	音楽理論・作曲法基礎（編曲法を含む。） (Musical Theory・Fundamental Method of Musical composition)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	3	教育学部	後学期	火3	日本語		単独

担当教員	氏名　清水　慶彦 E-mail　shimizu-y@oita-u.ac.jp　内線　7388
授業の概要	楽譜の読み書き、音階と調性、作曲と編曲の方法の概論など、音楽理論の基礎を学ぶ。このことにより、音楽科教員として必要な基本的素養を身につける。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	楽譜の基本的なシステムや、音階と調性の理論など、いわゆる「楽典」の内容を理解し応用できる。		○						
目標2	和声法の基礎を学び、初歩的な課題を実施することができる。		○						
目標3	調性音楽における作曲法や編曲法の概要を学び、基礎的な楽曲構造を理解できる。		○		○				
目標4									
目標5									
目標6									
目標7									
目標8									
目標9									
目標10									
		各DPへの関連度（計10）	8		2				

授業の内容	
1	音の高さ、長さ、強さとは何か
2	音をどのように記述すればよいか
3	「音階」 音の高さのヒエラルキー
4	「調性」 音高を組織化する手法
5	「和音」 複数の音を同時にならす
6	「和声」 和音はどのように移り変わるか
7	和声法の実践（１）基本位置の三和音の連結
8	和声法の実践（２）和音の転回とその連結
9	和声法の実践（３）さまざまな「バス課題」
10	和声法の実践（４）属７の和音
11	和声法の実践（５）属７の和音の転回，根音の省略
12	ここまでのまとめと小テスト
13	音楽作品にみる和声法の実際
14	調性音楽における作曲法とは
15	編曲の方法

アクティブラーニング				
A:知識の定着・確認	○	和声課題の実施や楽曲分析，編曲実践などをともなう能動的修学。	その他の工夫	
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造	○			

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	課題の実施等（25h）
	事後学修	課題の復習等（20h）
	想定時間合計	45

教科書	『楽典 音楽の基礎から和声へ』（小鍛治邦隆 監著　2019年 アルテスパブリッシング ISBN8-4-86559-197-2） ＊初版第３刷以降を用意してください（初版第１刷、第２刷は誤植等が多いため）
参考書	『中学校学習指導要領解説 音楽編』（平成29年７月 文部科学省）ISBN978-4-87788-811-4、『和声 理論と実習』（第１巻 島岡譲他 1964年 音楽之友社 ISBN4-276-10205-7）

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業中の課題等	40%	○	○	○							
	授業中の小試験，試験等	60%	○	○	○							
	授業中の課題，小試験，試験等により総合的に評価。											

注意事項	
備考	
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	大分県立芸術緑丘高等学校での作曲実技指導
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	作品集CDの出版、楽譜の出版、国際音楽祭での作品の上演、委嘱作品の作曲などおもに「現代音楽」の領域での作曲家としての実務経験
実務経験をいかした教育内容	創作実践で得た知見や、高等学校での指導の経験をふまえ、各学生の習熟度に応じた助言指導をおこないます。